

問う

代表・一般質問を平成30年6月12日、13日、14日に開会した第2回定例会本会議で行いました。

代表・一般質問

議案の審議に先立ち、各会派を代表する議員と無党派の議員が、区政全般について質問を行い、区政執行にあたる区長をはじめ執行機関の考えを尋ねました。以下、その一部を掲載します。

足立区議会自由民主党

財政機能が最大限発揮され 更なる区政発展へ!!

自由民主党 新井 ひでお 議員



積極的な財政運営を

【問】平成29年度の財政調整交付金は、ほとんど基金に積み立てられた。22区と比較してサービス等が見劣りするものもある。基金を原資として区単独事業を洗い出し、事業化を図ることとで格差解消すべきかどうか。

【答】平成30年度も増収が続けば、我が党の予算要望のうち実現されていない事業やボトルネックの課題解消、エリアデザインによるまちづくり等に財源投入すべきかどうか。

【問】新年度予算編成では、これまでに以上議会、区民からの要望に真摯に向き合った行財政運営が重要である。特に、都区財政調整交付金と特別区民税収について、決算審査における議会からの指摘を踏まえ、見込みを立てるべきと考えるかどうか。

【区長】①景気は緩やかな回復基調が続いているが、十分慎重な備えが必要と考えている。

しかし、所得の再配分も重要である。地域包括ケアの充実等、真に区民に必要とされる在り方を見極め、対応を進めていく。

②ボトルネックの課題の解消や、少子・超高齢社会への対応、エリアデザインの推進等、優先順位を見極め、機を失することなく適切な財源措置を講じていく。

【政策経営】③都区財政調整交

いて取り組みを進めているのか。

【地域】今回改訂した「第7次足立区男女共同参画行動計画」では、意欲の高い女性を積極的に登用、能力を発揮してもらうための議論を進めていく。

まず、区内企業や地域団体などのような意識を持っているかを把握し、女性活躍推進のための数値目標の設定や事業計画の策定を進めていく。



魅力的な公園づくりを

【問】子供の運動不足の原因として時間、空間、仲間の3つの減少が考えられる。パークイノベーション推進計画の施設配置

区民の生命を守るために たゆまぬ防災対策を

自由民主党 渡辺 ひであき 議員



支援物資を管理する対策を

【問】災害時における物資集積場所運営及び物資輸送の協力等に関する協定書が太成倉庫株式会社との間で結ばれた。支援物資が届いた際の管理体制、さらには物資輸送の在り方の構築を急ぐ必要があるが、今後の対応とスケジュールはどうか。

【危機管理】11月の総合防災訓練では、模擬支援物資の輸送、荷降ろし、荷捌きを連動させた訓練を考えている。民間事業者

の考え方に「ボール遊びコーナー」とあるが、おでかけエリア

【みどり】現在、ボール遊びコーナーは17のおでかけエリアのうち10エリアに設置されている。

残る7エリアでは、既存施設や都立公園の活用により、エリア毎の設置が可能と考えている。

家庭保育手当の創設を

【問】昨年、第3回定例会で、提案した家庭保育手当に対して、研究していくと答弁しているが、施設整備だけでなく、待機児童抑制と解消を目指して手当創設を検討すべきと考えるかどうか。

【子ども】共働き世帯の増加等により保育需要が上昇傾向の中、手当支給は、保育需要に対応するための施設整備費用と、在宅での子育て支援費用の二重の財政負担となる可能性がある。幼児教育・保育の無償化の動きを注視しながら検討していく。

国道、都道、区道の安全対策を

【問】千住汐入大橋から千住曙町へ歩いた際、自転車走行注意と歩行者安全確保のためのポールやバーが設置されていた。

一方で、千住新橋の北から南への通路にはポール3本の設置のみであった。それぞれの安全対策基準が違うのはなぜか。

【都市建設】千住汐入大橋を通る都道314号線周辺は、都が歩行者と自転車の接触事故を防ぐために、自転車スピード抑制用のバーと、接触による怪我防止用のポールを設置している。

また、国が管理する千住新橋の歩道上は、歩行者の飛び出し防止用にポールを設置している。配置や数は、道路管理者であ

地域の魅力を創出するまちづくり・防災対策について

自由民主党 伊藤 のぶゆき 議員



始発駅となる北綾瀬駅の整備を

【問】①まちづくり勉強会の議論内容及び、区の考えを伺う。

②乗降客の増加見込みはどうか。

③駐輪場の増設準備はどうか。

④保育、学童需要をどのように見込み、充足する考えか伺う。

⑤しようぶ沼公園の改修で価値の高い活用をすべきかどうか。

【市街地】①交通改善計画等を柱に長期計画として交通結節点強化等、地区まちづくり計画の内容に踏み込み、変化するまちの未来を住民と共に考えていく。

【都市建設】②1日約5千人の増加を見込んでいる。

③平成30年度中に北綾瀬南自転車駐車を収容可能施設として

る国、都及び区が各種基準に基づき、環境や納税者意識等を考慮して、適切に設置している。

千寿本町小での教訓を形に

【問】東日本大震災時に、千寿本町小学校が帰宅困難者を受け入れた経験は、大変貴重なものである。昨年の第3回定例会では、その記憶、記録が散逸する前に収集するとの答弁があったが、この貴重な教訓をいつまでに形にするのか。

【危機管理】昨年第1回北千住駅前滞留者対策推進協議会で、防災当日の出来事を時系列にまとめた資料を配布し、説明した。この記録をもとに、課題等を整理し、秋までに避難所運営訓練等を通じて幅広く周知していく。

整備予定で、さらに駅北東部に民有地の借用交渉を進めていく。

【待機児】④環境整備基準に基づき需要を予測し、認可保育所新規整備、小・中学校の増設、学童保育増室等を検討していく。

【みどり】⑤住民意見等をもとにふさわしい活用法を検討する。

【問】①六木団地・綾瀬間のはるかぜを始発駅となる北綾瀬までに短縮、効率化してはどうか。

②一部で減便が相繼いでいる。交通弱者の「足」として、安定した事業とすべきかどうか。

【都市建設】①住民の意見を聞きながら、北綾瀬起終点ルートを含め、始発電車の運行ダイヤ